

環境報告書 2007 外部監査結果

監査実施日 2007年8月8日

監査概要

全体的には、理工系大学の特色を生かしよくまとめられており、また各種データもよく集計されていますが、以下の点を今後検討されることを期待します。

1. 東京工業大学では環境方針という形で大きな方向を示され、それに基づき活動されていることは評価できます。これをより具体的に、いつまでに、何をどのように実施していくか、という具体的な目標と活動状況を明確に示すことが望まれます。例えば目標を数値または定性的な形で示し、その目標に向かって環境負荷低減活動に取り組むことが求められます。
2. 学内外の利害関係者（ステークホルダー）である学生及び大学周辺地域の住民がどのような情報について大学に開示を求めているか、大学にどのような活動を期待しているか、などにつき意見交換をする場を設け、報告書の作成に取り組んでいくことが望まれます。意欲のある学生を公募し、報告書作成チームに実質的に加わってもらうことも有効な方法だと思われます。
3. 社会とのコミュニケーションの手段としての環境報告書とするためには、全般的に、一般読者にもわかりやすいものに工夫する必要があります。また、普及させるためのアピール方法として、一般的なもの（冊子配布、ダイジェスト版配布、web公開）と、大学として蓄積しているデータ集（今後経年的な比較検討ができるように検討する）を分けるなどの工夫が必要です。
4. 環境マネジメントは、PDCA サイクルの実施体制及び仕組み作りが重要で、評価・改善までの実効性を担保するようにしてください。
5. 環境関連研究に関する項は文系の人や一般市民にもある程度理解できるようなわかり易い表現にしたほうがよいと思います。
6. 環境教育についてはもう少し具体的な内容説明があったほうが良く、学生たちへのインタビュー記事等の掲載等も有効なのではないでしょうか。

2007年8月10日

外部監査員

京都大学大学院地球環境学堂

教授

松下和夫